インターネットと共に変わる電子出版

電子出版とは

電子出版という言葉が使われはじめて10数年が経過した。電子出版は、広義にはDTP(デスクトップ・パブリシング)からCD-ROM出版まで、出版に電子的なものを介在させる各種の仕組みを指している。DTPは、Adobe社が吸収合併したAldus社が「PageMaker」と共に流行らせた言葉である。DTPを推進したのがSeyboldセミナーという展示会で、一年に2回アメリカの西海岸と東海岸で開催されるこの催しでは、5、6年前までPostScriptやSGMLという単語が飛び交っていた。しかし、Seybold セミナーも印刷のコンピュータ化についてはすべてをやり尽くしたようで、数年前からデザイナー、ロジャー・ブラックをセミナー議長としてWeb Publishingに傾注しはじめた。

Web Publishingは、ホームページ自体を出版物と見なす考え方で、Seybold セミナーは、ホームページのデザインやJava、Dynamic HTMLを使った動くページの制作などをテーマにして、インターネット系の展示会として再生した。

CD-ROMを使った電子出版

CD-ROMという大量生産が容易で低価格の大容量デバイスを使用した出版も、米国では、マイクロソフトの統合辞書ソフト「BookShelf」や百科事典「Encarta」がWindowsと共に登場し、パソコン本体やOffice製品へのバンドルで、瞬く間に市場を席捲してしまった。また、書籍の電子化ではなく、オリジナルのCD-ROM出版物作りを進めたVoyager社の美術や音楽系の製品群は高い評価を得た。

日本では、富士通が推進するEPWINGやSONYがプレイヤー(読書端末)を製造する電子ブックというCD-ROM出版の標準化団体が、出版社や印刷会社と一緒に、辞書系出版物の電子化を推進し、10種類ほどの英和辞典をユーザが選択できるほどの市場を作り上げた。

インターネットを使った電子出版

このような電子出版に1998年、転機が訪れる。

米国では、10月にNIST(National Institute of Standards and Technology)がインターネットからの書籍のダウンロード販売や読書端末を計画している会社を集めて仕様統一を迫った。NISTは日本では工業技術院に相当する政府機関で、そこが日本流のやりかたでインターネット出版の標準化を推進しつつある。

11月の世界最大のコンピュータ展示会Comdex Fallでは、マイクロソフトのビル・ゲイツ会長が、「Open eBook」や「ClearType」について説明した。

Open eBookは、インターネット出版のデータフォーマットで、「Free & Open」の思想に基づき、1999年5月には暫定仕様が一般に公開された。

ClearTypeは、画面を紙面に近づけるためのフォント表示技術で、TrueTypeというWindowsで採用されている文字データ形式とその表示エンジンを拡張して、高精細な文字表示を実現している。

ビル・ゲイツ会長はスピーチの中で、On Screen、On Paperという表現で、紙面から画面への移行を推進することを表明した。今、我々は紙面で新聞や雑誌、書籍などを読んでいるが、これらを徐々に、インターネット上に移行しようという提案である。

日本では、1998年10月に電子書籍コンソーシアムという、衛星を使った書籍配信の実験プロジェクトが通産省の後援でスタートした。計画では、2000年3月の実証実験終了までに、5000冊の書籍をキオスク(販売端末)経由で購入可能とし、175dpiという高精細液晶を使った読書端末でこれを読もうという計画である。実験段階では、日本が世界に誇る文化である「コミック本」を画像データとして扱うが、実験とは別のビジネスとして、テキストデータの配信も検討している。

1998年のこの電子出版の大変革がなぜ始まったかといえば、インターネットの急速な進歩が最大の要因である。CD-ROMは単なる媒体でしかないが、インターネットは仕組みそのものである。新聞や雑誌など即時性が求められるメディアには最適だし、私小説を読むことと、日記サイトを覗くことには、行為としての隔たりはない。

電子出版の今後

ソフトウェアと違い、出版物の著者はコンピュータについての警戒心が非常に強い。バージョンアップやサポートが不要の世界でコピーが氾濫すれば著者にとっては死活問題だからだ。しかし、インターネットが常に繋がっている環境と暗号技術とマシンIDがあれば、データのコピーを防ぐことができ、図書館のような本の貸し借りの仕組みも構築できる。

ということで、今後、書籍の電子化が推進されることになる。すでにVoyager社のT-Timeや凸版印刷のBook Jacketという読書ソフトが入手可能であり、今後、多くの読書端末や読書ソフトが発表される予定である。米国では、Rocket eBookやSoft Bookという読書端末が販売され、Rocket eBook用の電子書籍は、大手書店チェーンのオンライン版である、Barnesandnoble.com(http://www.barnesandnoble.com)で販売されている。インターネット上で多くの支持を得ている、Adobeの画面表示用の組み版フォーマットであるPDFを使用した読書端末も発表されており、これから数年は、各種のデータ形式の標準化やデータ配信の仕組みが提案されるであろう。

また、CD-ROMで提供されている辞書も、今後、インターネット上の辞書引きサービスに進化していくと思われる。

参考URL

「電子出版リンク集」(http://www.est.co.jp/ks/dish)に多数のリンクが解説付きで入っている。

(下川和男　株式会社イースト)

インターネット白書／©1996-2012 Impress R&D

Internet White Paper ARCHIVES
インターネット白書
ARCHIVES
1996,1997,1998,1999,2000

［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先 | 株式会社インプレスR&D | ✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.